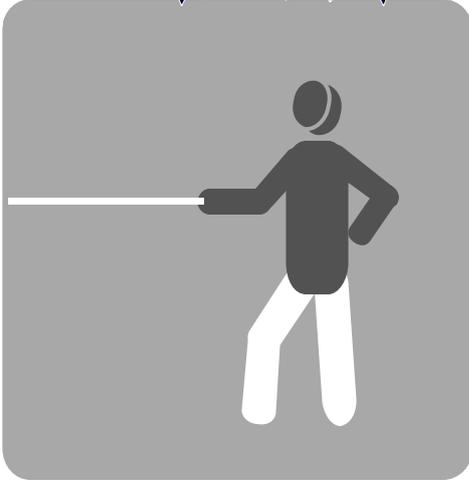


# Sabre (サーブル)



部分が有効面

[剣の重さ	500 g以下]
[剣の全長	105 cm以下]
[ガードから剣先まで	88 cm以下]
[ガードの直径	縦15 cm以下 横14 cm以下]
[ガードの深さ	15 cm以下]

剣身は扁平で刃がついており、いわゆる「みね」の部分も剣先1/3が裏刃になっていて、その「刃」の部分で切れば有効となります。

サーブルは、他の2種目とは異なり、その昔、ウラル山脈地域の騎馬民族が行っていた剣術で、9世紀に今のハンガリーに根を降ろしました。フランス等西ヨーロッパ諸国ではあまり普及しませんでした。馬上の剣術として19世紀にイタリアにおいて、現在見られる形式が出来あがりました。

馬上で行う軍刀術がスポーツ化したもので、他の2種目と異なり切りが主体ですが、突きもできる競技です。従来は男子だけが行っていましたが、世界選手権大会にも女子の部が開催されるようになり、2001年の高知大会から正式に女子の部も行われています。

サーブルにも、有効面と無効面があります。有効面は選手の腰から上の部分で、頭・両腕も含まれます。これは、昔、戦いの際に相手の馬を傷つけることを避けるために、腰から下は攻めなかったことから来ています。

判定は、電気審判器を用いています。フルーレ同様細かな規則が決められているため、攻撃権の取り合い、防御の方法等が判定に影響します。

サーブルのおもしろさは、激しい動き、そして豪快な切り合いにあります。